

八ヶ岳JOMONライフフェス

来年9月9日から44日間

茅野市準備会 1月、実行委発足

茅野市で3年に1度開く縄文総合芸術祭「八ヶ岳JOMONライフフェス」の準備会（仮称）の実行委員会準備会は14日夜、市役所で初会合を開き、来年度初開催する「第0回」のフェスを来年9月9

日から44日間にわたって行うことやイベントの骨子を確認した。各種団体に参画を呼び掛け、1月23日に実行委員会を発足させる予定だ。

「楽しむ」視点から発議し、市が今年度事業費200万円を投じて、劇場コンサルティング会社「シアターワークシ

ヨップ」（東京）と構想を練ってきた。



メイン会場の一つとなる尖石遺跡＝茅野市豊平

企画書などによると、フェスは「第1回」と位置付け、海外は、尖石縄文考古館や茅野市民館を中心に市内各地で開く。「衣食・住・遊」がテーマで、キヤッチコピーは「生きる」はもつと素直でいい。既存と新規のイベントを組み合わせて、縄文プロジェクトの品を集めたメッセ・ものづくり期間（9月22日～10月9日）、縄文祭りや夜の火祭りを

楽しむメインイベント（10月7～9日）があり、縄文かるた大会や市民館企画を繰り広げるアート期間（10月1～22日）で閉幕する。目玉の「夜の火祭り」では巨大土器の野焼きや、貫頭を着た男女が闇夜で踊る縄文ダンス、縄文ドキュメンタリー映画の上映を行う予定。最終日の10月22日には「著名ミュージシャンと縄文の歌を合唱する」（同社）ことも想定している。

準備会には市や市民会議、文化・芸術・観光関係者ら約40人が出席した。（唐沢宏）